

# 根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2018/10/21 実施)～

参加者: 6名

雲ひとつない青空の観察日和。少し冷たい風が吹いていたが、湿地の中に入るとそれほど気にはならなかった。アキアカネらしき赤とんぼがしきりに飛び交っている。トウガエデ、ケヤキなどは台風の塩害のせいか、一部の葉が枯れている。池にはカルガモ、そしてヒヨドリがとんで行く。やぶの中からはチツ、チツと鳴き声が聞こえる。どこかできいたことがある声なのだけれど、姿は見えない。



雲ひとつない観察日和(カキ)



ソクズの実

何かごそごそしていると思って双眼鏡をのぞいたら、アシの葉かげでスズメが戯れていた。先ほどの声の主はアオジかもしれないが、とうとう最後まで姿は確認できなかった。モズの声も聞こえた。見上げるとカラスザンショウが重たそうに実をつけている。この実に集まる鳥は? 地面には実生のカラスザンショウが伸びていた。

ヒメジソは先月まだ咲いていなかったが今日の花はもう終わりかけて実ができています。アメリカセンダンとコセンダンの花が並んでいたの、花の違いがよく観察できた。ヤブミョウガの実、ソクズの実と見ていたら、その奥に真っ赤なカラスウリが下がっていた。ジュズダマも実がしっかりとついている。今は盛りのミゾソバのそばにウシハコベの花、見慣れたハコベの花だが、秋の訪れとともに咲きだしたと思うと新鮮な感じがする。



真っ赤なカラスウリの実

ところどころに見られるカントウヨメナの薄紫もとてもいい感じ。イヌタデの赤も鮮やかだ。コブナグサの穂はいたるところで風にゆられ、あきの風情。それにしてもずいぶん増えている。そしてヌカキビの「サヤサヤ」も根木内を象徴する「あき！」だ。ヌカキビの茎の下の方には笹の形のような葉がついている。いつも穂だけを眺めていたのでこんなに大きな葉があることには気づかなかった。今日の発見だ。シロバナサクラタデ、ボントクタデもまだ花をつけていた。



秋のおとずれ、カントウヨメナ



オオカマキリのお母さん

藪の中のいたるところでジョロウグモが立体的な巣をかけており、うっかりすると我々もからめとられそう。先月に比べてメスはずいぶん大きくなっていた。すみのほうにはちゃんとオスもいました。ナガコガネグモは一匹だけ見られた。

夏のなごりかハグロトンボが1頭草の上に留まっている。ツマグロヒョウモン、ナガサキアゲハ、モンキチョウ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、オンブバッタ、コバネイナゴ、広場の草むらにはクビキリギス、そしてヒメジョオンの茎にオオカマキリのお腹のおおきいものがひそんでいた。そばには新しそうな卵塊もあったがこれは他のオオカマキリだろう。でもこんなたよりない草に産み付けて、刈られてしまったらどうするのだろう。



オオカマキリの卵



目の下が黒いのはツチイナゴ



コナラのまわりはミゾソバがいっぱい

シラカシのドングリもたくさん落ちていたが、これはこの間の台風の風によるものなのか、なんとなく例年より小さいようだ。暑くも寒くもない日よりで気持ちのよい日だった。公園にはザリガニツリや虫とりの家族づれが沢山集まっていた。



公園のあちこちで見られるコブナグサ



イヌタデも実りの季節

11月の湿地の観察会は、、、

**11月11日（日）**

**9:30 駐車場集合**（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。  
お問い合わせは下記メールまでお願いします。

[akihitoaizawa@gmail.com](mailto:akihitoaizawa@gmail.com)（相澤）

# 根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2018/11/12 実施)～

参加者: 3名

穏やかな陽ざし、風もなく暖かい。ジャヤナギの下は草がすっかり刈られ、地面はヘビイチゴの新しい葉で覆われている。他にハルジオン、ギシギシの葉も見られた。先月と同じようにカラスザンショウを見上げると重そうな実がまだしっかりついていた。ジュズダマ、ノブドウ、ヤブミョウガ、ソクズ、ヒカゲノイノコズチ、ヒメジソ、ヒヨドリジョウゴ、オナモミは実をついていた。イヌホウズキは白い花と実が見られた。ミゾソバは？とみると白いツボミのような様子。これはそう果？ということで、中を確かめる。まだ白っぽい種のような硬いものが入っていた。



ミゾソバ

山側の木立からはさかんにヒヨドリの鳴き声が聞こえる。アシの藪の中からはスズメと共にアオジらしき声もきこえる。しばらくしてヒーッ、ヒーッと声が聞こえた。声の主を捜すと、川の向こうの桜の木にジョウビタキみ、がきていた。オレンジ色の姿が美しい。ハクセキレイ、ハシボソガラス、ウグイスの声も聞いた。けれど今日はカルガモの姿はみられない、水鳥がいないのはなんとなく寂しい。近年この湿地に集まる鳥の数はへっているのか？

湿地全体に草刈がおこなわれており、見通しがよくなっていた。シロバナサクラタデもからんでいたツルマメなどと一緒にサッパリ。来春の芽生えに期待したい。刈られたあとの地面では小さなヒメジソ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウが見られる。他にケイヌビエ、イヌガラシ、イヌタデなど。コブナグサはもう枯れた状態でモサモサ固まっている。ボントクタデ、カントウヨメナ、ヌカキビがまだひっそりと残っていた。去り行く秋を惜しむかのような。



ボントクタデ



コバネイナゴ

コバネイナゴは草の間を飛び回り元気。ジョロウグモも3Dの巣にぐるぐる巻きの蛾らしきものをぶら下げていた。オレンジ色のチョウチョはよく見るとキタテハだった。アキアカネ、そしてハグロトンボもまだ一頭だけとんでいた。湿地、山側の木々にはツマグロヨコバイが沢山いた。国道側の十月サクラは今年も花をつけている。ビワの花は満開だが、地味でめだたない。コブシはビロード状の花芽をつけていた。

先月の観察会からの間隔が短いせいか、植物の大きな変化は感じられなかったが、それでも秋は一步一步深まっているようだ。公園出口の近くに来ると、またまたアオジらしき鳴き声が聞こえるが、ここでも声のみ、姿はなかなか見せてくれない。もう少し落ち着いたら姿を見せてくれるのかな。



コブシ



ツマグロオオヨコバイ



キタテハ

12月の湿地の観察会は、、、

**12月16日(日)**

**9:30 駐車場集合** (小雨決行) です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。  
お問い合わせは下記メールまでお願いします。

[akihitoaizawa@gmail.com](mailto:akihitoaizawa@gmail.com) (相澤)

# 根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/2/16 実施)～

参加者: 4名

池のヨシ群に、まるで『ヌシだぞ』というようにアオサギが陣取っており、周りをカルガモがとりかこんでいる。カルガモはアオサギの『トリマキ』か？

ヤブミョウガのあったあたりで緑の葉が目についた。葉裏には胞子がみられ、シダ類らしい。ここでは初めて見た。(後でヤブソテツらしいと判明)他にヤエムグラ、ムラサキケマン、ウシハコベ、ハコベ、セリ、ヨモギ、ソクズ、ヘビイチゴ、カキドオシなどの新しい葉が見られた。こんなに寒くても、春の準備はすすんでいるようだ。土塊ばかりの田んぼにもタネツケバナ、タガラシが株を広げていた。畦の日当たりの良いところにはオオイヌノフグリの青い花やヒメオドリコソウ、オランダミミナグサが咲いていた。湿地の中を回っている我々のあとを追うようにカルガモがやってきて水面に着水する。今日はカルガモが沢山姿を見せてくれた。ヨシ群にはシジュウカラ、アオジが入っていて盛んに鳴いている。おやおや、アオジが1羽、続いて2羽とびだして枝にとまった。続いていくつかとんできては、またヨシの間に戻っていく。1羽のアオジがス～と向こうへとんだ。すると次々に後を追っていく。まるでアオジのファミリーのようだ。ウグイスのさえずりも聞こえると思ってみたら、ヨシの枝先に姿を現した。ウグイスの姿確認！次にはツグミもとんできて、梢にとまる。

昨日は雪が舞ってとても寒かったが今日は陽ざしがあり、少し暖かいせいか鳥たちも活発だ。斜面のコブシは芽をつけているが、フジのつるが巻き付いて苦しそう。ニワトコも芽吹いた。アセビはすでに花をつけているものもあった。広場のロウバイは盛りをすぎているが、芳香を放っている。それに比べ今年の梅は花の付き具合はよくないようだ。広



オオイヌノフグリ

場のコブシの芽も少ない。モズ(♂)がアジサイの枝先に来た。地面にはツグミが現れた、と思ってみたら、背中茶色で、胸は白っぽい。どうやらシロハラのような動きは、チョコチョコと進んでは止まる、というツグミそっくりの様子なので見間違えるところだった。シロハラもツグミも仲間同士、動きが似ていても当然かもしれないが、シロハラは藪中でゴソゴソやっているという観念だったから、こうしてツグミのように歩きまわることもあるのだなあと思った。久しぶりの観察会だったが、春の足音を感じることができて楽しかった。

3月の湿地の観察会は、、、

**3月16日(土) 9:30 駐車場集合** (小雨決行) です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。  
お問い合わせは下記メールまでお願いします。

[akihitoaizawa@gmail.com](mailto:akihitoaizawa@gmail.com) (相澤)

根っ子の会 観察会 2019年3月16日(土) 参加者10名

春の開花花盛り レンギョウ・ヒメオドリコソウ・オオイヌノフグリ・コブシ・サクラ等が咲き、マガモのペアも来園



ヒメオドリコソウ ホトケノザ オオイヌノフグリは畦道で花盛り



湿地山側のコブシ3輪開花 芝生広場はほとんど満開 三原さんのサクラは満開:シナミザクラ?



ツバキ: 湿地山側 シイノキ裏 石庭 ツバキはたくさん名前があるんですネ



コサギ マガモ♀ カルガモ等々 結構賑やかでした



湿地山側のコブシを見上げる 中央池のカモを観察 公園入口のレンギョウ・ユキヤナギが開花

# 根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/3/16 実施)～

参加者: 10 名

今回は、3名の感想と写真を掲載します。

田んぼの畦に咲く白いタネツケバナは春を第一に感じさせてくれました。一方、池にはマガモのカップルがいます。もうしばらくすれば北へ帰るのでしょうか、まだまだ名残惜しそうに常駐のカルガモに交じっていました。マガモの♀とカルガモは同じように茶色っぽい色をしています。あれ？あれはカルガモか？マガモか？なんて言いながら比べられたのでおもしろかったです。アオジもまだ沢山アシの藪にもぐっていて、朝は声が聴けただけでしたが、昼近くなるとさかんに飛び出してきました。アオジは何時頃北へ帰るのでしょうかね。



マガモのオス



マガモのメス



カルガモ

1年半ほど前に参加したが、久しぶりの参加で初めての参加と言えよう。何を観察するかよく把握しないうちの行動になったが、身近の野草・花、樹木、野鳥など気づくものを参加者と一緒に観察し感想を述べあう形である。難しく捉えずに参加することのようだ。

普段ほぼ興味のないものの観察のために、特に野草花などは足で踏みつけていたものがその対象物であり多少戸惑った。一口に雑草と考えていたものに、ひとつひとつ名前があり、当たり前であるが改めて認識した。



ホトケノザ

とくに「たねつけばな」の命名に興味を持った。「タネツケバナがある。」と参加者から声はかかったが、10 cmほどの白くて小さく可愛い花であるが、さほど目立つでもなくほぼ見向きしない花と思えた。田起こし前の田んぼなどにあり、稲の種もみをまく時期に生えて花が咲くために、この名が付いたとのことである。図鑑にもそのような解説があり田舎で育った小生は、小さいころ恐らくこの花を見ていたのではないかと感じ入った次第である。



タネツケバナ (2012年4月撮影)

#### 一昨年3月の記録と見比べての比較

- ・ ヤブソテツは一昨年は記録がない。当時は気付かなかったのか、なかったのか。過去の記録があればチェックしてみたい。
- ・ ミゾソバの幼芽（若葉と言うのか）の記録は一昨年にも有り。今年もカメラに収める御仁有り。何が彼をしてそうさせたか。観察者のビヘイビアには興味がわく。
- ・ 赤ガエルの卵塊が一昨年の記録にある。今年は根っ子の会のメンバーが先日、一塊を保護したはずだが消失していた。この2, 3年の変化は赤ガエルの減少を印象付けるが、専門家は何を根拠に減少等の変化を結論付けするのだろうか。
- ・ アトリの記録があるし、群を成して飛翔する様を思い出した。今年は葦原を飛び交うアオジは印象が強かったがアトリは見なかった。近辺の様子はどんなものだろう。



ヤブソテツ



ミゾソバの幼芽

4月の湿地の観察会は、、、

4月20日(土)

9:30 駐車場集合 (小雨決行) です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。  
今後は**基本的に第3土曜**に開催ということになりました。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

[akihitoaizawa@gmail.com](mailto:akihitoaizawa@gmail.com) (相澤)